

海外日誌(八)

在米山本一清

四月一日(日)

朝七時さいふ早い時、バンビー夫人が吾々の室を叩いて、「シカゴから御婦人連れの御友達が見えました。昨夜、この村に着かれたのだそうですが、餘り遅かつたので、只今訪れて來られました。階下の室に待つておられます」とのこと。床の中で今眼が醒めたばかりの時なのだが、さにかく起きればなるまいと、大急ぎで顔を洗ふやら、着物を着るやら。「ハテ、警告もせず訪れて来るとは、誰だらう?」と考へながら、狼狽するこそ夥だし、英子の方が少し早く身ごしらへが出来たので、猿狽く階段を降りて、そして、胸をおごらせながら、戸を開けて、室へ顔を出せば、コレはく!! 大きく作つた男女の人影が二つ、椅子にもたれて人待ち顔の風情、紳士にはバンビー教授の外套と帽子を着せ、淑女にはシモヌ嬢のコートを着せて、顔には一通りの目鼻が盡いてある。英子は暫くボンヤリ。別室では子供達の忍び笑ひの聲。なるほ今日四月フルの日であるのだ!!

招かれて、朝食にはリー氏方へ行く。食後、「人形來客の一節を話してきかせて、又一笑ひ。——十時半から連れ立つて教會へ行く今日は復活祭日で、禮拜に集つた人々の数は平常の倍もある。日曜學校の方でも、特別の禮式があり、小供達は皆卵子を貰つて歸つて行く。

午後一時のディナーにはミス・ランニンが來て食卓を共にする。食後は暫くひるね。

四月二日(月)

日食觀測が近づくので、天文臺内に於いて、それらの準備が忙しそう。フロスト臺長とバーク教授とは暇があれば首を集めて何くれと相談してゐる。今日からリー氏は天文臺の前庭に太陽鏡を持ち出し、焦點距離六十呎のレンズを並べて、時計仕掛の調節をやつてゐる。

四月三日(火)

今日は村の役人達の選舉日。我がウイリアムス・ペーは四五年前までは隣村フォンタナ村の一部であつたのだが、近年獨立して自治團體となり、其の初代の村長としては、天文臺のパレット教授が選ばれ、助役にはリー氏が當つて今日に及んだ。さうが今度改選期になつて、ガラージュ(自働車運轉業)の主人グンゼー氏がパレット氏を向ふにまはして反對派の候補に打つて出たといふわけ。數日前から演說會だの何だの言つて村は可なり騒いでゐた。學校の生徒なども撰擧の稽古をしてゐたやうな。グンゼー氏は學校の理由は、パレット氏の水道改修政策によつて地方税の増徴せられるのを反對するのであるといふ。——天文臺の有権者たちは勿論皆パレット派で、我家のバンビー教授も夫人も午前中に投票に行つた。又、村でも物のわかつた連中は味方だといふ見込みであつたが、午後になつて反對派が御手のものの自動車で有権者の馳り出しをやつたため、形勢は樂觀を許さなくなつた。

午後八時、自分は天文臺の自室で讀書してゐるさ、ストルフェ君が馳け込んで來て、「ミスター・パレットは落選した! 僅か一票の差で」といふ。リー氏は落選で天文臺派は敗北した。——あさで開けて、天文臺のサリヴン氏は昨夜觀測のため、今日は朝から終日れてゐて、選舉には棄權したとのこと。残念々々。

新聞により、在バリの日本の三殿下御遭難の報を知つた。

四月四日(水)

マウント・ホリヨク女子大學の天文臺長ミス・ヤンク氏昨夜來着、今日より三ヶ月ほど當所で光度研究をせられる。宿はリー氏宅、食事はミス・カルブト方、研究室はバーク教授室。

夜、バーク氏と共に二十四時で駁者座V星撮影。

英子はカルブト方で裁縫會に出席。十時同道歸宅。

四月五日(木)

小遊星エトラの位置を計算して推定表を作る。

夜はブルース鏡で小遊星を多く撮影す。

デアボーン天文臺長フォクス氏から招待狀が來た。近い中に往訪することとする。

四月六日(金)

英子はコルドバ星表とケープ星表の變光星の計算をやる。

自分は終日、昨夜の寫眞の現像、検査、計算。

ラシバイン天文臺長ステビンスより「遊びに來い」といふ手紙。來月行く筈の返事を出す。

四月七日(土)

變光星の統計研究。

午後、英子はレーキ・セネバ町へ買ひ物に行く。

四月八日(日)

午前中、教會行き。

午後、パーク教授訪問。それからリー氏方を訪ひ、同夫人の案内で三人が湖畔を散歩する。水際の草に少しばかり春らしい氣分が見えて來た。

夜、ブルースで觀測。

四月九日(月)

豫て知らせのあつた通り、午前十一時、シカゴから田崎氏來訪。英子と二人で停車場まで迎えに行つたが、珍らしい程の雪と風とで氣の毒であつた。——とにかく、天文臺へ案内して、取り敢へず、研究室や十二吋塔などを見せた。それから正午には共にバンビー氏宅に歸つて食事。後、又、天文臺へ歸つて二十四時、四十時の順に望遠鏡を見せた。其後、圖書室に休息、久しぶりにいる／＼と日本の事など話す。

午後四時、同氏はシカゴへ歸られるので、又、停車場へ見送る。

夜、バンビー教授及びシモヌ嬢と四人で村の小學校に開かれる父兄會の講演會に行き、ミルチャーキー博物館のミス氏の植物講話をきく。

夏服が出來て來た。

四月十日(火)

研究室で計算。

夜曇り。明日から旅行するので、クリーヴランドの案内を調べ

四月十一日(水)

骨休めを兼ね、クリーヴランドに開かれる宗教々育大會に出席のため、又、同地の天文教育視察のため、今朝七時半出發。今んごは獨り旅。

シカゴ北西停車場着九時半、同十時半、ラサル停車場からニウヨーク・セントラル線の急行に乗り込む。トリードで東部標準時の域内に入る。

午後七時、豫定の如く、クリーヴランド聯合停車場に着いて、車を下りたが、生憎、雪混りの雨降りて北風が寒い。自動車雇ふて、ホテル・クリーヴランドに入る。こゝは市街の中央廣場に望んだ一角を占めて、誠に立派なホテルである。

宗教々育大會は當ホテルの夜會場で、今日の午後八時から始まる。新聞の前景氣では來會人員一千人であるので、如何に大きなホテルも今日は少しは混雜するだらうと思つてゐた。しかるに、來て見て、「大會は何の室であるのか」とホーイに聞いたところ、一會合は幾つも開かれてゐますが、お尋ねの會は何會ですか」と問ひ返されて、ギヤフンと參つた。——會は會長ソーレス氏の演説「新時代の宗教々育」、ついでハヤ牧師の説教「今日の人心」。

四月十二日(木)

今日は、一日中、正直に宗教々育の諸會合に出席するときめる。先づ朝九時からG.A.コー教授の座長で協議會、題は「宗教々育の效果の發見」、ついで「其の結果發見の改良如何」。午後は會長ソーレス教授座長となり、又協議會で、題は「人間性に關する諸問題」。

午後四時頃、二先づ會が終つたので、自分は獨りで附近の街路を散歩に出かけ、公衆廣場を一回巡つた後、ブロスベクト街を西へ行つて、ヴァイアダクト(大釣橋)の壯觀を見、歸りには鐵工場の多い邊りを通つた。夕食後、イックワド街を散歩し、それから湖畔に出て、波の上に美しく没して行く太陽を見る。

夜八時から、大會場でO.デビス師の説教「宗教々育は教會より何を望むか」、次でJ.M.グートラー教授の講演「理學時代の宗教教育」。

四月十三日(金)

朝八時過、宿を出て、ケース應用理學校へ行かうとしたが、ウエ

ド公園行きの電車に乗つて、方角を誤り、大まごつき。やつと、人に聞かぬ、イウクリド街に出で又電車に乗り、十時半頃に遂に大學廣場に到着。直ちに目ざすケース學校の物理學教室を訪ふた。しかるにフロスト氏からの紹介状を持つて來たのに有名なC.ミラー教授はワシントンへ講演に行つたさで不在。マーテンといふ若い講師が極めて親切に各室を案内してくれた。かの有名なマイケルソン・モーリーの實驗したといふ光波干渉器も見た。午後は天文學助教授ナツサウに自働車で案内して貰つて、市外れのワーナー・スエッシー氏記念天文臺を參觀した。新しく、十時程度の器械であるが、羨ましいぐらゐ立派に調つてゐた。

歸途、カーネギー街にワーナー・スエッシー會社を訪問。しかし生憎、又、ワーナー氏もスエッシー氏も不在なので、主事シリリー氏に案内して貰つて工場内を參觀、今製作中のエスレイアン大學の六十時望遠鏡、それから南米コルドバ天文臺行きの大反射望遠鏡の部分を見た。夕方、宿に歸着、八時から大會に出て、ツヨンス師の「宗教上に於ける家庭の權利如何」、ついでライガル教授の「宗教々育上より見たる公立學校の問題」をきく。

四月十四日(土)

朝八時半、宿を引き上げ、南西電車鐵道に乗つて、午前十一時頃、オベリン町に着。大學の事務所で宿をきいて、遠藤君の居るさいふカウンスル・ホールを訪問。正午、同君、宮川君、水向君等と午餐を共にしそれからホールに歸つて、雜談す。日本人學生諸君多く集る。午後三時から岩谷、本出兩君の案内で、自働車で大學町の内外を散歩して、同志社創立者デビス博士の墓にも參拜。四時からは福原君を加へて、四人連れで、雨風を冒し、イリリア町の日本人料理店へ食事なしに行く。午後八時、又、オベリンに歸り、丁度、大學大會堂で開かれてゐる活動寫眞オリヴァ・トウイストを見る。夜はカウンスル・ホールの福原君の室で眠る。

四月十五日(日)

朝九時半から富川湯淺兩君に連れられて、大學内の日曜學校を參觀、親切なるロビシヤア教授の案内を受く。十時半からフィンニー

會堂で壯嚴な禮拜式に參列、湯淺君は唱歌隊に加はる。禮拜式後、早々、荷物なまよめ、多くの諸君に別れ、電車でイリリアに行く。車中、支那人學生ヤン君と大に談ず(日本語と英語混用)。イリリア停車場で午後一時半の半急列車に乗りこちて西行。七時半シカゴのラサル停車場着、直ちに日本人青年會に入り宿る。ずるさ、圖らずも昨日から、京速大學醫學部の眞下助教授が當地に來てゐるさ、大喜び、早速、宿のブラクストンに電話をかけるさ、あちらも喜んで、間もなく自働車で青年會へかけつけて來られる。一時間ばかり話す。明朝再會を約して夜半別る。

四月十六日(月)

朝九時、ブラクストン・ホテルに眞下君を訪ね、同行の人々と共に暫く市街を見物、午前十時頃、テイアホール街に北西大學醫學部を參觀した。それから同氏等はシカゴ大學へ行かれたが、自分だけは別れを告げ、一旦、青年會に歸り、荷物なまよめ、午後三時半、北西停車場からベリに歸る。

四月十七日(火)

午前中、研究室へ出たが、午後は疲れのため、ひるね。

四月十八日(水)

何だか、痛くて首がまばららない。それでも午後、研究室からの歸途、カンバスで子供達とボールを投げて遊ぶ。夜は小遊星や北極の寫眞撮影。夜半頃、十二時塔に上つて、ミス・ヤンが蠶座星團の光度測定をやつてゐられるのを見、暫く自分もそれを手傳ふ。

四月十九日(木)

南西の風、溫度七十度(華氏)といふ暖かさ。今まで着てゐた冬のシャツなどを脱ぎかへて、心底から春の氣分になる。午後三時五十五分と、五時二十分とにアルデバラン(牡牛の五星)の掩蔽がある。之れに關する推算結果が、かれて、ロシアのカルコフ天文臺から送られて來てゐた。今日は其の時刻に、パンビー、ストルプフェ爾氏は四十時へ、ミス・ヤンが自分とは十二時へ行つて觀測。結果、推算時刻より十六秒及び二十一秒速い。

夜、英子はミス・カルワート氏で裁縫會。

日本銀行より電報局替一〇四七六〇弗来る。

四月二十日(金)

フロスト臺長は今朝出發、夫人と同伴で、ワシントン府(國立理學院の年會に出席。

夕方、英子と湖岸を散歩し、有名なコンフエレンス・ポイントあたりを歩く。夜空曇り。午後八時より、宅の子供達と共に村の學校へ行つて、ハイスクール第三年級生の演劇「And Home Came Ted」を観る。感心!!

四月二十一日(土)

午後二時過ぎ、英子とリー夫妻に連れられてテラヴン町へ行つた。ところが夕食時になつても歸らない。「途中で自動車に故障が起つたのぢやないでせうか」とバンビー夫人は心配して、リー氏の留守宅へ電話をかけたりにてゐられた。ところが十時頃になつて、一行三人、車塵を擧げて、堂々と歸つて来て、曰く「エルクホーン町へまはり、ステイル氏の御宅に御馳走になつてゐました」。

四月二十二日(日)

午前中、教會に禮拜。其の後、バレット夫人の望みにより、自分は日曜學校の上級女生徒に日本の宗教事情を話す。

午後、リー家を訪問。それからパーク氏夫妻と湖岸まで散歩。ついで、一同、カルバート方を訪問。

夜曇り。獨りで教會の集會へ出席し、南部アフリカから歸つて來た傳道者の土産話をきく。

四月二十三日(月)

午後二時、リー氏に連れられてレーキ・セネバ町に行き、齒醫グアイカースに齒の検査をして貰ふ。五時歸宅。

夕食後、カンパスを散歩。

四月二十四日(火)

終日、研究室。

四月二十五日(水)

早朝一時半起床、ブルース寫眞器で蝸、射手あたりの星座を撮影三時半に、もはや東天が白んで來て寫眞を續けられなくなつたには驚いた。高緯度の夏は天文家のために禍ひだ。

四月二十六日(木)

午後六時、ウイルソン山天文臺から歐洲スティーデンに歸國する途中のKランドマルク氏が當地へ來るので、夕方、英子と共に、散歩かた／＼停車場へ迎へに行く。パーク、バンビー兩氏も来る。同氏夫妻は今日から三日パーク氏の客となる。

夜八時、宅の子供達と共に學校へ活動寫眞を見に行つた。題は「Come on over」といふので、愛蘭の少女の戀を畫いた喜劇であつた。十時頃大満足で歸つて來て、吾々二人は宅へは行かず、直ちに研究室に來て見ると、ストルフェ君が面相變へてやつて來て、火事だ!皆焼けた!!といふ。それが例のロシア訛りで、聞き手が英子と來てゐるから、意味が通じない。「何です?」と言つて自分も出て來て見ると、ストルフェ君曰く「バンビースアルクの家が焼けて、臺所は丸焼け。烟りで、始めは、ひどい事だつた。しかし、あな達の室は安全です」といふ。ソリヤ大變だ。大狼狽で馳け出して宅へ歸つて行く。……なるほど、例になく宅の室々の電燈は明々と點だられて、人が多数出入してゐる。裏口から飛んで臺所を覗くと、眞黒々と焼けた臺所の中は無茶苦茶に物がこぼれてゐて、其の中で泥だらけになつた御主人バンビー教授とリー氏が大聲で興奮してゐる。ミス・カルバート等を始め、婦人たちも澤山見舞に來てゐる。「まづ、臺所だけで消し止めたのは幸ひであつた。」と皆言つてゐる。バンビー氏は自分等の歸つて來たのを顧みて、「やあ、此の通り、ひどいことでした。あな達の室が丁度此の上に當つてゐましたが、安全です!!」火元は臺所の一角に片づけてあつた掃除道具カイル・マツトから自發的に